

令和 4 年 度 事 業 報 告

令和 4 年度は、一般社団法人になり 10 年目であった。
令和 2 年 1 月から流行した新型コロナウイルス感染症は、令和 4 年度も日本国中で猛威を振るい、第 8 波まで感染が広がったが、令和 5 年 2 月には沈静化した。

「休日・夜間院外処方せん応需事業」については、新型コロナウイルス感染症流行が続いて受診者の減少が続いていたが、新発田地区救急診療所以外の新型コロナウイルス薬の処方を受けたこと、令和 4 年 9 月から新発田地区救急診療所が発熱患者の受け入れを始めたためと、3 年ぶりのインフルエンザの流行があり、受診者は令和 3 年度よりかなり増えた。冬期に屋外での投薬などがとても増えた為、駐車場にカーポートを設置して、ドライブスルー方式で投薬出来るようにした。また、新型コロナウイルスの検査キットの販売を行ったため、収支は大幅な赤字であったが、令和 3 年度よりは赤字が減少した。

平成 27 年度より受託した中条地区休日診療所の調剤業務は順調に行われた。村上市では、インフルエンザが流行せず、出務依頼は無かった。

本会が継続運営している FAX コーナーについては、開設時間の短縮と賦課金額を増やしたことから経費が節減でき、通過単価はほぼ変わらなかった。

支援センター薬局については、令和 3 年度に比べて処方せん枚数は増えた。複数の腹膜透析の患者さんが血液透析に移行したことなどがあつたが、新型コロナウイルス感染症の検査事業に参加したことや、新型コロナウイルス薬の処方せんを受けたこと、新型コロナウイルスの検査キットの販売などで、収入・仕入は増えた。常勤薬剤師が 4 月から 8 月まで 1 名少なかったことなどで人件費も減ったことから収支は黒字となった。

不動産在庫医薬品売買支援事業については、4 年度の会員薬局利用件数は延べ 89 件だった。前年度と比べ買取額と販売額は減少して差損益も減となった。事務作業に係る人件費を差し引いて収益はマイナスとなった。

在宅医療への参加については、新型コロナウイルス感染症の影響で研修会などは Web が中心になり行われた。

ときネットの薬剤情報共有システムは、使用頻度が少なくサーバーの維持が出来なくなりシステムは中止となった。トキネットも参加薬局は増えてはいない。村上地区においても同様な動きがあつた。

今年度も薬学生実務実習は、1 期 5 名と 2 期に 4 名、3 期は 4 名の受け入れを行った。新型コロナウイルス感染症の影響で集合研修はできず、実務実習指導薬剤師同士の交流もなかった。

令和 4 年度は、学校薬剤師報酬の値上げの要望書を、村上市を除く管内の行政に提出したが、報酬の値上げは無かった。

薬剤師会会費については、県薬の会費検討委員会の開催が無かったため、当会の会費検討委員会も開催はなかった。

[重点事業報告]

1. 「休日・夜間院外処方せん応需事業」は、新型コロナウイルス感染症の流行が続いていたため、新発田地区救急診療所の受診者は激減していたが、令和4年9月から発熱患者の受け入れを始めた為、前年度に比べて受診者数は増えた。また、令和4年度はインフルエンザの流行が令和5年1月から3シーズンぶりにあり、外での投薬が増えた為駐車場にカーポートを設置して、自家用車でドライブスルーを行えるようにした。
処方せんは新発田地区救急診療所だけに限らず、他医療機関からも受付けており令和4年度は40医療機関から応需した。令和3年度より応需医療機関数が13件増えたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、他の地域の医療機関の受診者が電話で受診が多くなり、処方せんの応需が増えた為と思われる。このように当事業を行なうことにより地域医療に貢献することができた。
また、中条地区休日診療所薬剤師派遣事業は、受診者数が激減したままであった。村上急患診療所への薬剤師の派遣は、インフルエンザの流行が無かったため派遣は見送られた。
2. かかりつけ薬局推進事業は、今年度も皆様のご協力により順調に事業は継続された。
4月より賦課金額の変更・勤務時間の短縮などを行った。FAXコーナーは全体的に年々通過枚数が減少傾向にあり、人件費も少しずつ上がっているため、全体的に経費削減に努め、通過単価はほぼ変わらない金額に出来た。(4ページ参照)
3. 下越薬剤師会支援センター薬局は、処方せん枚数は約750枚程度増え、収入は約1650万円増えた。国の新型コロナ感染症の検査事業に参加したこと、新型コロナウイルス薬の取扱いを行い、複数の医療機関からの処方せんに対応したこと、新型コロナウイルスの検査キットの販売を始めたことなどが増収の原因と考えられる。
また、常勤薬剤師が4月から8月まで1人足りなかったため、その分の人件費が減ったのも関係すると思われる。
4. 不動在庫医薬品の買取・譲渡は、売買率の変更はなかった。全体的に取扱い品目・金額共に減り、収益も大幅に減った。(5ページ参照)
5. 在宅医療の推進は、新型コロナウイルス感染症の流行で研修会はWebが主流になり、集合の研修はほとんどできなかった。ときネットは大きな進展は無かった。
6. 今年度の研修会は昨年度に比べて、開催回数は減り、参加人数も減った。Webの研修会が大半を占めた。研修単位をつけた研修会だけで年間13回、参加総人数はのべ336名であった。(6ページ参照)

7. 情報委員会は、下越薬剤会ホームページのメンテナンスと改良等を行った。
8. 薬学生実務実習委員会は新型コロナウイルス感染症のため集合研修・実務実習指導薬剤師の交流は何も無かった。
9. 会費検討委員会は、新潟県薬剤師会の会費は変更がなかったことから、令和4年度も開催を見送った。

[項目的事業報告]

1 会 議

- ・ 総 会… 令和4年6月25日（下越薬剤師会支援センター2階会議室にて）
令和5年3月25日（下越薬剤師会支援センター2階会議室にて）
- ・ 理 事 会… 令和4年6月2日、6月25日、11月19日、
令和5年2月25日
- ・ 総務委員会… 令和4年6月23日、11月14日、令和5年2月17日

2 委 員 会 等

(1) 情報委員会……下越薬剤師会にて

今年度は、次の6点について活動した。

- ① 下越薬剤師会ホームページのメンテナンスを行った。
- ② B-Bickのメンテナンスを行った。
Officeの更新に伴い新しいエラーが出るのが数回あり、その都度対策を行った。
- ③ 薬価改定他、薬価収載、名称変更のB-Bickのデータの更新とメンテナンスを行った。
- ④ B-BickのWebサーバーのWebARENAのSuiteの終了の為SuiteXへの切り替えを行った。
検討の結果ホームページのwebサーバーである「さくら」は変更しないことになった。
- ⑤ 新しい情報委員のメンバーを募集した。
- ⑥ B-Bickの後継のシステムについて検討した。

活動日・・・下記の計6回

令和4年5月20日、7月22日、9月9日、11月25日、
令和5年1月20日、3月3日

(2) 学術委員会学術研修会及びその他の研修会（6ページ参照）

- ・ 新発田地区・下越全体対象研修会・・・13回、参加人数336名
- その他、単位が付かない研修会の案内は多数あった。